

在アゼルバイジャン日本大使館
2020年12月18日

カラバフ地域における観光の可能性

今般のアルメニアとの停戦に伴い、アゼルバイジャン政府によるカラバフ地域の復旧が進められています。同地域の将来的な観光振興の可能性について、サミル・デュベンディ・アゼルバイジャン・ホテル・レストラン協会理事長兼エコツーリズム協会専務理事がニュースサイトに記事を投稿しておりますので、ご紹介します。

アゼルバイジャン軍によってアルメニアの占領から解放されたカラバフ地域にあるケルベジユル及びラチン両県は、大きな観光開発の可能性を秘めている。この可能性のために数多くの作業を行う必要がある。

山岳地帯で、最も高い山としては、ケルベジユルには 3,724 メートルのジャムシュ山 (Camisdag)、3,616 メートルのデリ山 (Delidag)、ラチンには 3,594 メートルのグズルボアズ山 (Qizilbogaz dagi) がある。また、多様な植生や野生動物、先史時代の遺跡 (洞窟壁画等)、城塞、古代キリスト教文化 (アルバン教会等) からテュルク系文化まで豊かな歴史文化遺産、絨毯等の民俗文化、美しい河川や温泉など、豊富な観光資源が存在する。

これらを活かす形で、両県には、例えば自然観察、登山・ロッククライミング等のスポーツ、療養、考古学ツアーなど、様々な観光誘致の潜在性がある。

勿論、観光開発の前提として、地雷除去や廃墟化したインフラの復旧整備を進める必要があり、地域におけるツアーの組織について話すのは時期尚早である。30 年間放置された歴史遺産・建造物を含む観光資源に関する調査や修復など、一朝一夕には解決できない難題に先ず取り組むことから始めねばならない。

両県だけでなくカラバフ全体が新たな観光地となり得る。近い将来、関係省庁や研究機関等が連携し、観光ルート整備やマップ作成、商品開発等の作業を行うことで、現在の観光危機を克服した後、多くの観光客を誘致することができる。カラバフは、エコツーリズムの名所として必ず有名になることだろう。将来、我々は、カラバフ及び隣接地域に、スイスのアルプス山脈やフランス、イタリア、ドイツの山々にも劣らない、美しい場所を創出するだろう。

(以上)